

# 平成30年度小松島市事務事業評価シート

<b>■事業の位置づけ（基本事項）</b>				<b>整理番号</b>	4 - 3 - 1
<b>事務事業名</b>	市道整備事業			<b>担当課係</b>	都市整備課
<b>総合計画上の位置付け</b>	<b>政策</b>	① 安全・安心で快適に暮らせるまちづくり		<b>記入担当者</b>	
	<b>基本目標</b>	2. 快適な暮らしづくり		<b>内線等</b>	
	<b>施策</b>	2-1 快適な生活・都市基盤の整備		<b>E-mail</b>	
	<b>基本方針</b>	2-1-1 道路・交通網の整備			
<b>事業の実施主体</b>	市（委託・補助事業含む）			<b>事業区分</b>	経常事業
<b>事業予算費目</b>	<b>款</b>	8	土木費	<b>項</b>	3 道路橋梁費
	<b>目</b>	2	道路橋梁維持費	<b>事業</b>	2 交通安全施設整備事業
<b>開始年度</b>		<b>年度</b>	根拠法令・要綱等	道路法	

<b>事業の対象</b>	（誰の、何のために事業を実施するのか） 市道利用者の安全で快適な通行のため。
<b>事業の目的</b> （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 道路機能の維持や改善のための修繕・補修及び改良を実施し、道路利用者の通行の利便性・安全性を図る。
<b>事業の内容</b> （内容・手法等）	（こういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） 道路の現地調査を行い、整備内容を決定し修繕や工事を実施する。
<b>事業の背景</b> （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 職員による日常の道路パトロールや通行者からの連絡により、市道損傷箇所及び原因を特定し、補修・改良等を行ってきた。

### ■事務事業の業績・推移（目標・実績）

		指標名		指標の説明				指標化できない成果
		工事箇所		事業で設置した箇所の総数				
成果指標	単位	H29	H30	R1	R2	目標年度 目標値		
	箇所	目標	9	7	10	10		
		実績	9	11				
		達成度	100.0%	157.1%				
活動実績・参考となる指標	指標名	単位	H29	H30	R1	R2	指標の説明	
	工事箇所	箇所	計画	9	7	10	10	
			実績	9	11			
				計画				
				実績				
				計画				
				実績				

### ■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

		29年度決算	30年度決算	30年度予算	R1年度予算	
全体コスト（円）	A 直接事業費	31,773,644	33,854,897	37,004,000	39,746,000	
	財源内訳	国県支出金				
		地方債	23,400,000	25,400,000		
		利用者負担				
		一般財源	8,373,644	8,454,897		
	B 人件費 ①×②	4,930,100	5,059,589			
	職員平均人件費①	4,930,100	5,059,589			
従事した割合②/人	1.00	1.00				
	A + B	36,703,744	38,914,486			
単位コスト	活動指標の説明	工事1箇所当たりのコスト	工事1箇所当たりのコスト		備考	
	活動指標1単位当たりコスト	4,899,877	3,537,681		平成29年4月1日現在 人口38,817人	
	市民一人あたりのコスト	946	1,020		平成30年4月1日現在 人口38,156人	

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 全国的に高度成長期に構築された道路・橋梁等のインフラ整備の多くが老朽化しており、老朽化した施設の更新や修繕等、維持管理に要する費用の増大が課題となっている。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 市民からは市道の破損箇所の修繕だけでなく、法定外公共物(里道・水路)の草刈り等の維持管理についての要望も増加している。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	市道利用者の安全確保に欠かせないことに加え、道路機能維持の観点においても必要性が高い。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	道路管理者である市が補修・維持を行う必要がある。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	簡易な修繕は職員が実施し、使用材料には再生材を使用するなど、経費やコストの削減に努めている。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	市道の補修・修繕は事故等を未然に防止するために必要であり、迅速な対応が求められることから緊急性は高い。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	市道の補修・改良を実施するとにより、歩行者の安全性・快適性が確保できており、一定の成果が得られている。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	既存の道路や橋梁などの構造物の多くが耐用年数を迎えており、今後一層老朽化が進行することが考えられるため、道路パトロールや点検等を実施し、補修や修繕等を継続し適正な維持管理を行う必要がある。	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	80 点 以上	評価点による判定	判定に至った理由
		2 現状のまま継続する	60 ~ 79 点		
2		3 改善・効率化し継続	40 ~ 59 点	評価点	当事業を実施することで、通行者の安全確保、道路機能維持を図り、快適な市民生活や都市基盤の健全な発展に寄与することから、事業を継続する。
		4 終期設定し終了	20 ~ 39 点	2	
		5 完了・休止・廃止	19 点 以下		

■改善・効率化の方向性 ※一次評価の判定が3の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容 (方向性・対象・手段等について記述)】
----------------------------------

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	判定説明
		2 現状のまま継続する	
2		3 改善・効率化し継続	道路機能の維持は、市民の安全・安心で快適に暮らせるまちづくりに欠かせないものであり、事業を継続する必要がある。
		4 終期設定し終了	
		5 完了・休止・廃止	